

2026年6月期 第2四半期決算補足説明資料



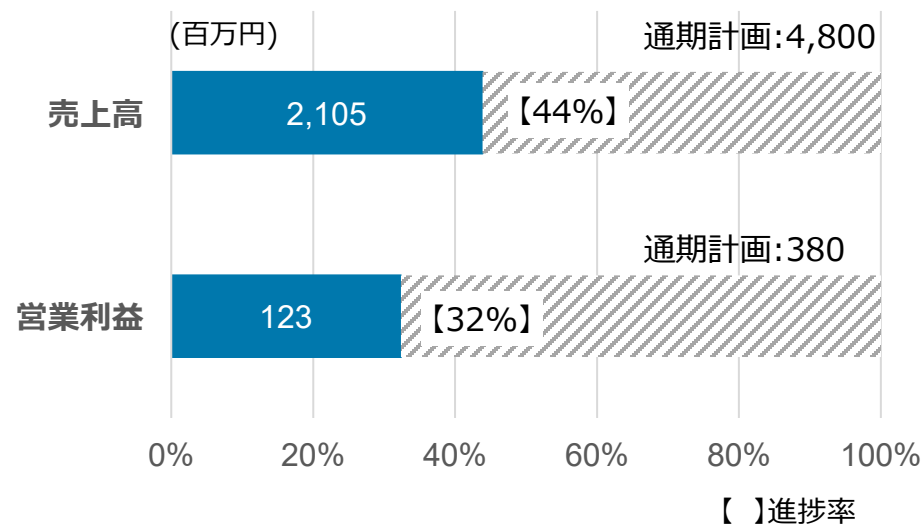
2026年2月13日

株式会社 リファインバースグループ
(東証グロース : 7375)

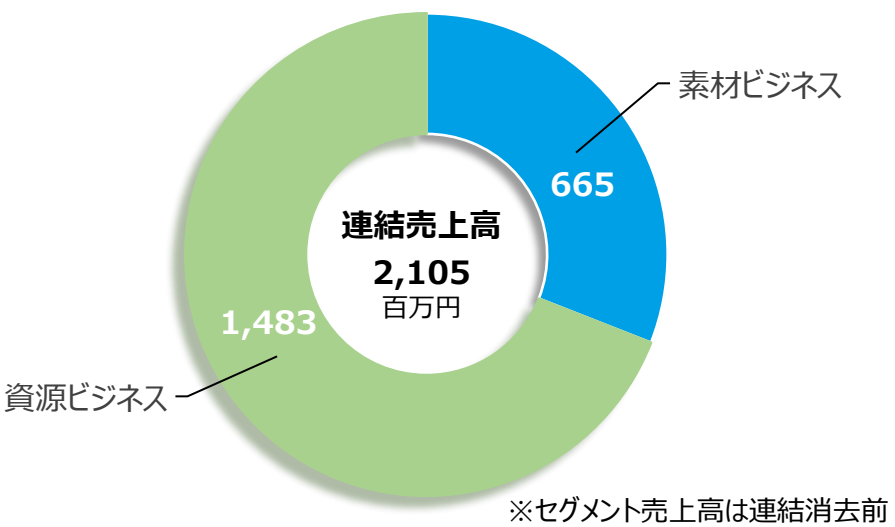
- 中期計画の主要KPIであるカーペット回収量が想定通りに成長をしており中期計画達成に向けて堅調に推移。
- カーペット回収との連動受注による産廃処理受託も伸びており両輪での成長の型が機能し始め受注件数は過去最高。

セグメント	取り組み施策	2026年6月期2Q累計実績
素材ビジネス	■ 大手デベロッパー等の使用済みカーペットタイルの回収を拡大	CTR事業売上 前年同期比112%
	■ 三菱ケミカルが実施する油化ケミカルリサイクルに対する原料供給体制の確立	油化ケミカルリサイクルによる 資源循環モデルを構築
資源ビジネス	■ カーペットタイル回収に伴う廃棄物処理受託拡大	資源受注件数 前年同期比108%

「対通期計画進捗状況」



「セグメント売上高構成」

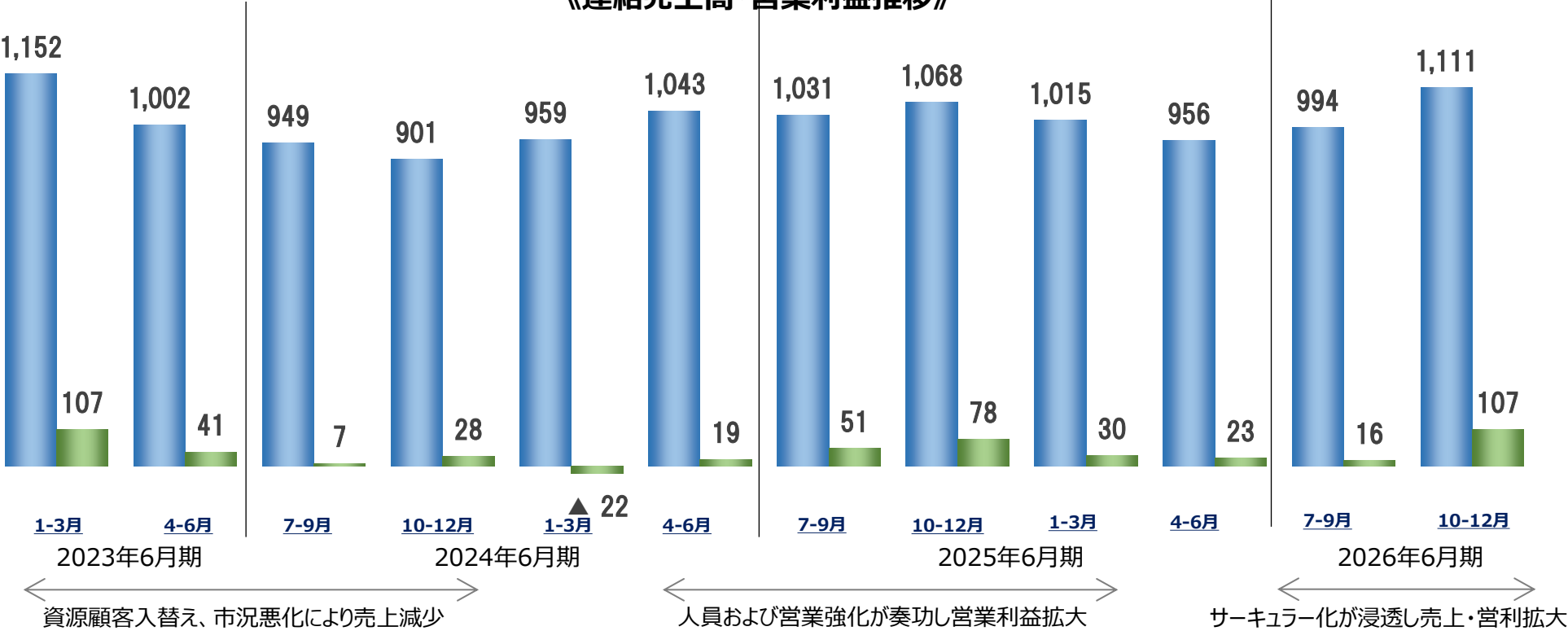


- 素材Biz/資源Bizの連動による成長戦略が機能し始め、一過性要因の影響を除いた四半期過去最高の売上・利益を計上。
- 今後も各事業の伸びが期待できる状況にあり、現場のリソースを強化し「受けきれない体制」を作ることにより注力。

単位：百万円

	2025年6月期2Q累計		2026年6月期2Q累計			
	金額	構成比	金額	構成比	前期比	増減額
売上高	2,099	100.0%	2,105	100.0%	100%	6
営業利益	129	6.1%	123	5.8%	95%	▲6

《連結売上高・営業利益推移》



- カーペットタイルの調達量は前年同期対比128%となり、中期経営計画達成に向け着実に進行中。
- カーペットタイル回収との連動受注による成長の型が機能しており持続的に受注件数が伸びる体制を強化。

()内は前年同期比

KPI	中期経営計画成長施策	25年6月期 2Q累計	26年6月期 2Q累計	28年6月期 年間目標	進捗状況
使用済み カーペットタイル 調達量	環境対応を重視する大手デベロッパーに対して、カーペットタイルリサイクルによる環境性能向上を訴求することで、原状回復工事で発生する使用済みカーペットタイルの回収を拡大	8,698t	11,167t (128%)	35,000t	大手デベロッパーを中心にカーペットタイルのリサイクルが浸透しつつあり、中期目標達成に向け調達先を拡大中。
資源ビジネス 受注件数	- カーペットタイル回収時に同時に発生する廃棄物の処分委託を拡大することで、受注件数を拡大 - 受注件数の増加に伴う廃棄物処理量拡大に対応し、中間処分施設のM&Aを進める	21,789件	23,584件 (108%)	100,000件	受注増は堅調に推移しているため、スタッフの増員などリソース強化により受注増を加速させる。

- 中期計画の成長戦略の成果が表れてきており、3Q以降も持続的な成長が期待できる状況になってきている。
- 3Q以降も受注増は継続する見通しとなっており現場リソースを強化することで着実に売上・利益を積み上げる。

	2025年6月期 2Q累計		2026年6月期 2Q累計				(単位：百万円)
	金額	構成比	金額	構成比	前期比	増減額	増減コメント
売上高	2,099	100.0%	2,105	100.0%	100%	6	
売上総利益	687	32.7%	737	35.0%	107%	50	中期経営計画達成に向け生産人員増強
販売管理費	558	26.6%	614	29.2%	110%	56	中期経営計画達成に向けた人員増強、PR活動強化
営業利益	129	6.1%	123	5.8%	95%	▲6	
経常利益	114	5.4%	106	5.0%	93%	▲8	
当期純利益	95	4.5%	93	4.4%	97%	▲2	

2026年6月期第2四半期 連結貸借対照表

➤ 利益計上により、純資産が増加。借入金の返済が進み、手元資金が減少。

単位：百万円	2025年6月末	2025年12月末	増減額
流動資産	1,432	1,467	35
現金及び預金	692	574	▲118
受取手形及び売掛金	449	550	101
その他	291	343	52
固定資産	2,029	2,028	▲1
有形固定資産	1,752	1,751	▲1
無形固定資産	29	29	0
投資その他の資産	246	247	1
資産合計	3,461	3,495	34
流動負債	1,108	1,127	19
支払手形及び買掛金	178	195	17
1年内返済予定長期借入金	548	553	5
その他の流動負債	382	379	▲3
固定負債	2,079	1,998	▲81
長期借入金	1,782	1,686	▲96
その他の固定負債	297	312	15
負債合計	3,187	3,126	▲61
純資産	274	369	95
負債純資産合計	3,461	3,495	34

- 素材ビジネスは、使用済みカーペットタイルの調達量増により再生塩ビ材の販売を拡大。
- 資源ビジネスは1Qでの前期大型案件の影響によるマイナスがあったが、2Q単体では過去最高のセグメント利益を計上。

	2025年6月期 2Q累計		2026年6月期 2Q累計				(単位：百万円)
	金額	構成比 /利益率	金額	構成比 /利益率	前期比	増減額	増減コメント
素材ビジネス							再生塩ビ材の需要は旺盛で原料調達量増により、再生原料の販売量も増加し増収。
売上高	642	30.1%	665	31.0%	104%	23	
セグメント利益・ 損失(△)	5	0.8%	111	16.8%	1,942%	106	
資源ビジネス							新規大手顧客との取引増及びサービス品質向上により受注件数増 中期達成に向け要員増強
売上高	1,490	69.9%	1,483	69.0%	99%	▲7	
セグメント利益・ 損失(△)	354	23.7%	326	21.9%	92%	▲28	
全社費用	229	-	315	-	137%	86	開発部門を中心に人員強化

単位：百万円、()内は前年比率

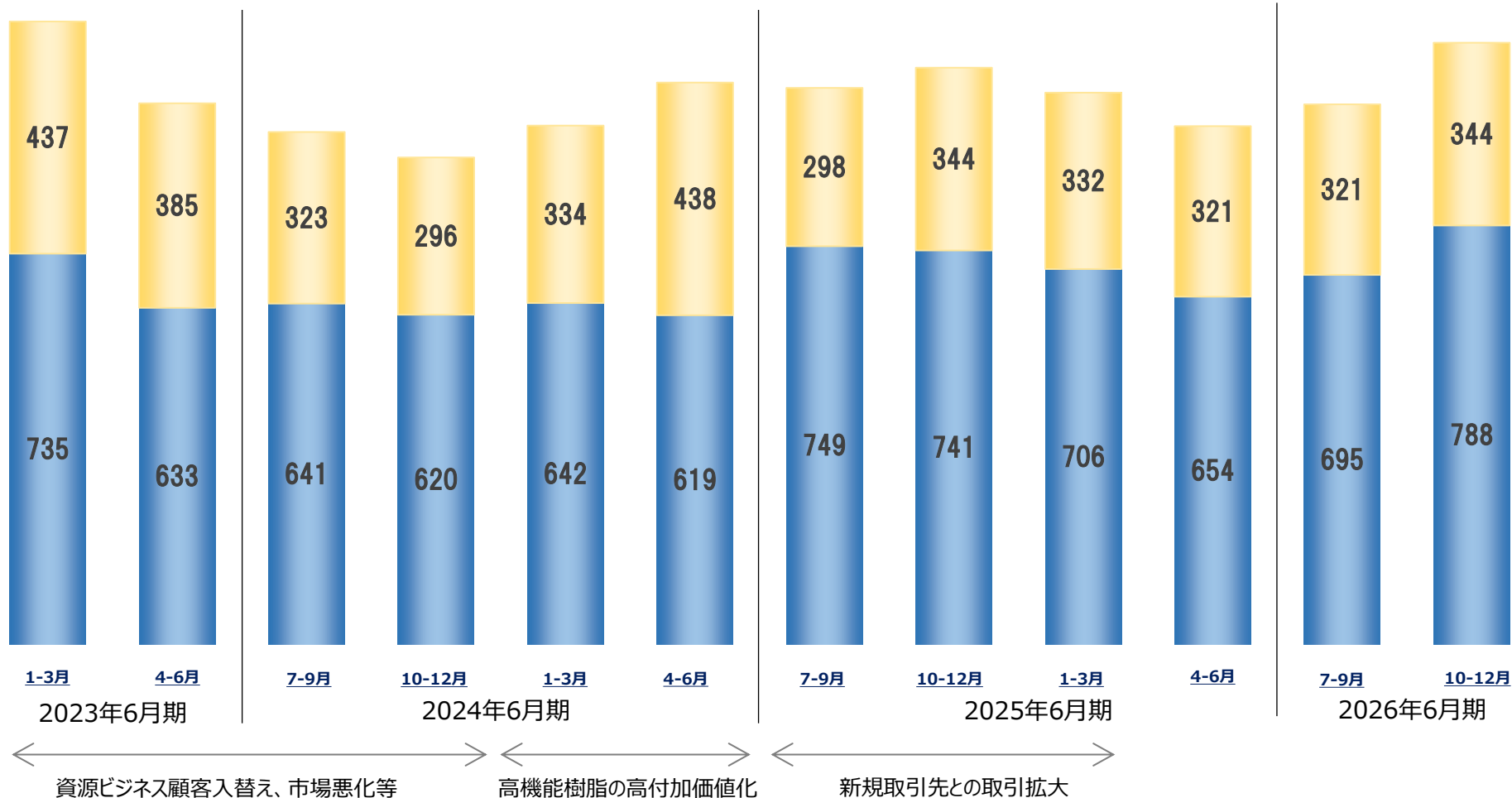
	2026年6月期2Q累計		業績サマリー
	売上高	セグメント利益	
素材ビジネス	665 (104%)	111 (1,942%)	■ カーペットタイルリサイクル事業は、カーペットタイル・リサイクルが大手顧客に定着しつつあり、使用済みカーペットタイルの調達が増加すると同時に、需要が増加している再生塩ビ材(リファインパウダー)の販売量も増加し、2Q売上高は過去最高を更新。大手顧客を中心に更なるカーペットタイル・リサイクルの拡大を進める。 ■ 高機能樹脂事業は、海外輸出の価格軟調により国内大口需要家への供給を主体に販売し売上高は前年レベルで推移。 ■ 油化ケミカルリサイクル向け廃プラスチックの生産・品質の評価を実施し、量産化に向けた製造・出荷準備を実行中。油化ケミカルリサイクルによる資源循環への期待が高まっており、多業界の企業と油化ケミカルリサイクルによる資源循環モデルを構築。 ■ 鳥羽根、ゴム、自動車内装材、ガラス等の複数の新規事業案件が進捗中であり、事業化に向けて開発体制を強化。
資源ビジネス	1,483 (99%)	326 (92%)	■ 素材ビジネスとの連動による資源循環を切り口とした新規大手顧客からの受注が増加。既存顧客からの案件獲得も堅調に推移し、受注件数は過去最高を更新。新規大手顧客への浸透を加速していく。 ■ 業界全体では現場オペレーターの人手不足が大きな課題となっているが、賃金改定や人事制度の見直しなどをいち早く行ってきていたことが奏功し、受注拡大に向け必要な人員の確保を継続。 ■ 前期受注の大型案件の影響で売上高、セグメント利益共に減となったが、受注は好調に拡大しており、中期経営計画達成に向けて営業を強化。

- 素材・資源ビジネスともに堅調な売上高で推移している。新規大手顧客との取引も順調に増加しており今後も継続の見通し。

単位：百万円

《セグメント別売上高推移》

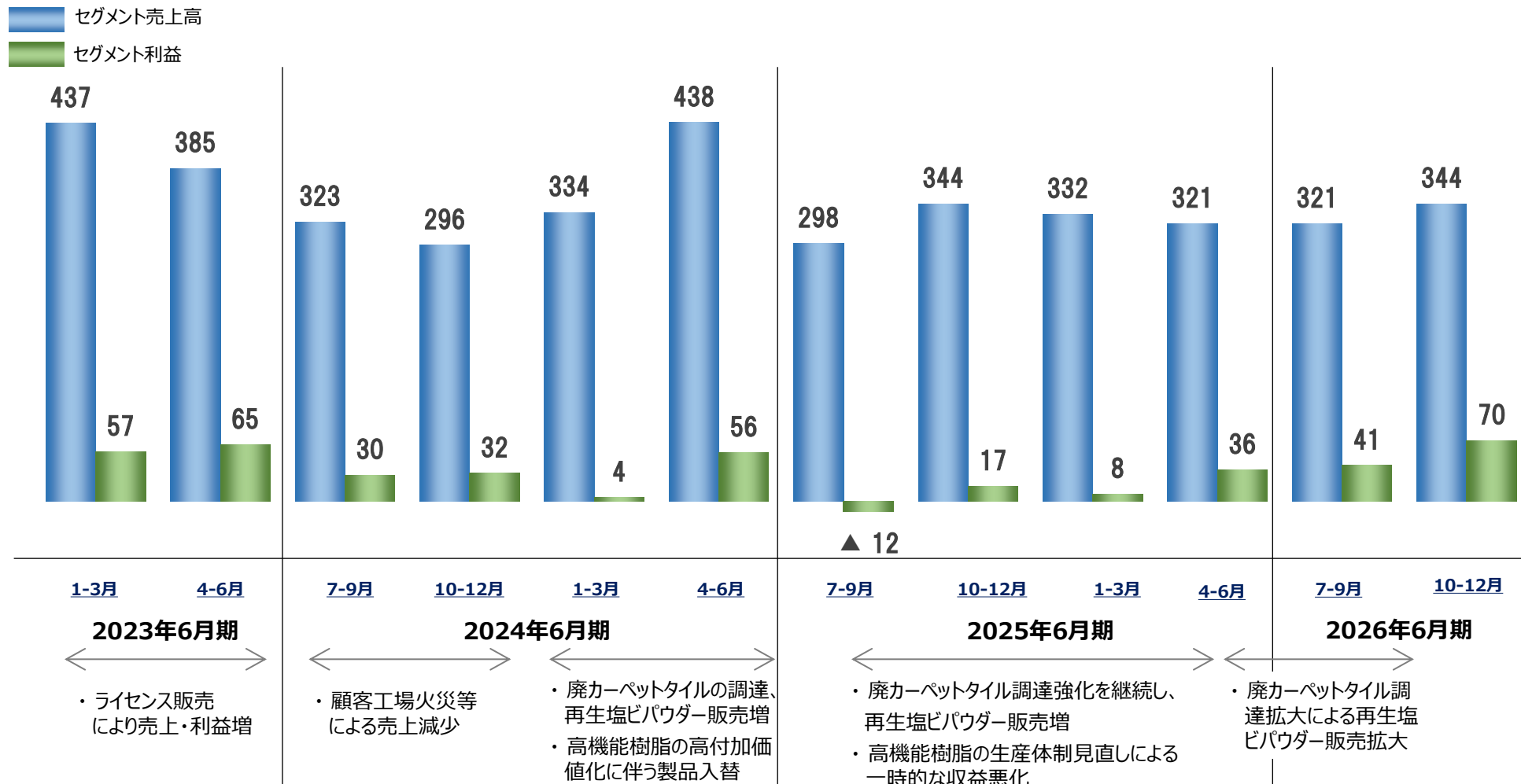
素材ビジネス
資源ビジネス



- CTR事業は再生樹脂の需要増は継続しており、原料調達増・再生材製造販売数が増加しているため増収増益が継続。
- 今後も再生樹脂の需要は増加していくと見込んでおり原料調達量を増加させることでセグメント利益を積み上げる。

単位：百万円

《素材ビジネス売上高・セグメント利益推移》

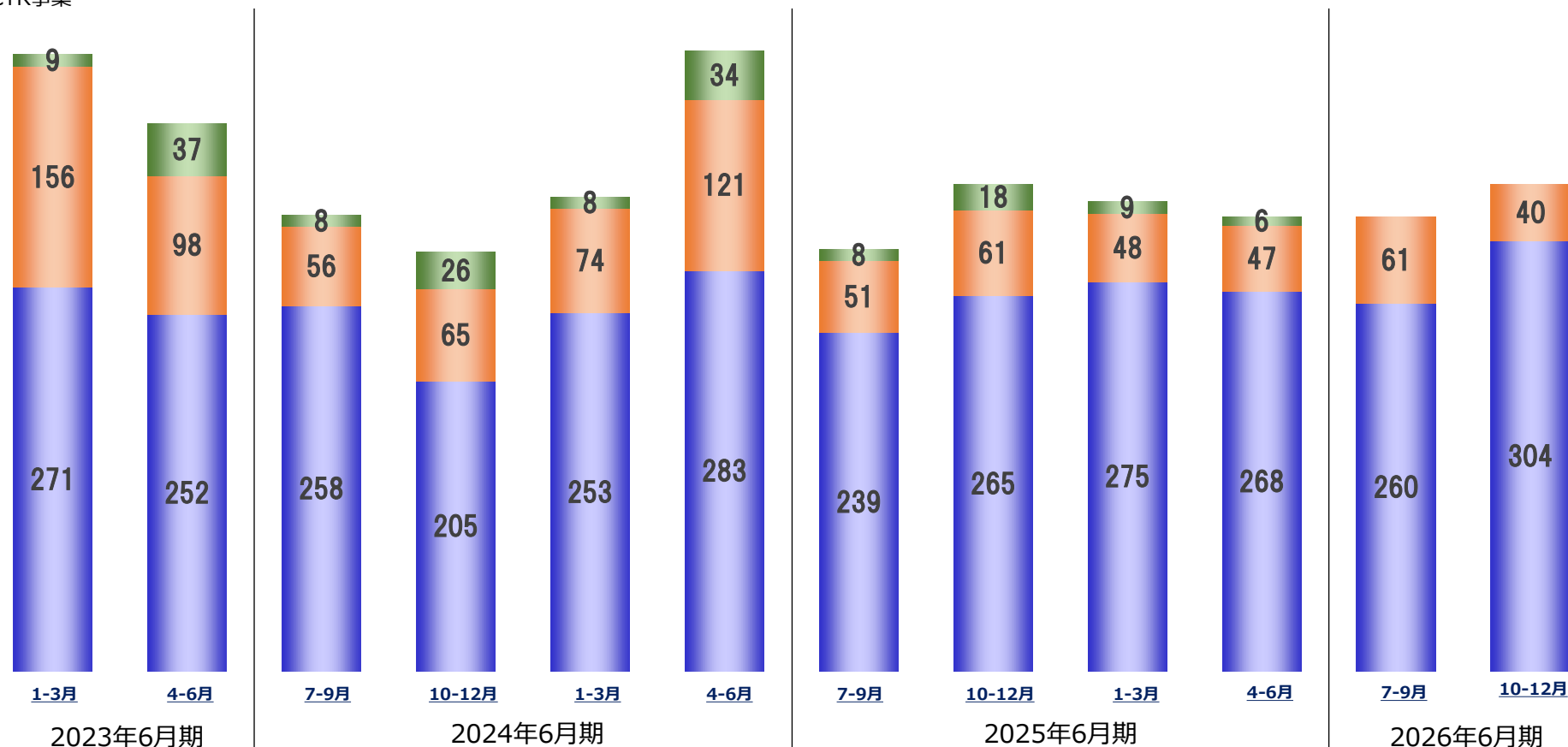


- CTR事業は原料調達・製造販売数が堅調に増加しており過去最高の売上高を計上。今後も原料調達を強化し成長を持続。
- 高機能樹脂事業は環境対応を推進する国内大手への販売を見据え工場移転などを含めて準備を進める。

単位：百万円

ソリューション事業 ※
高機能樹脂事業
CTR事業

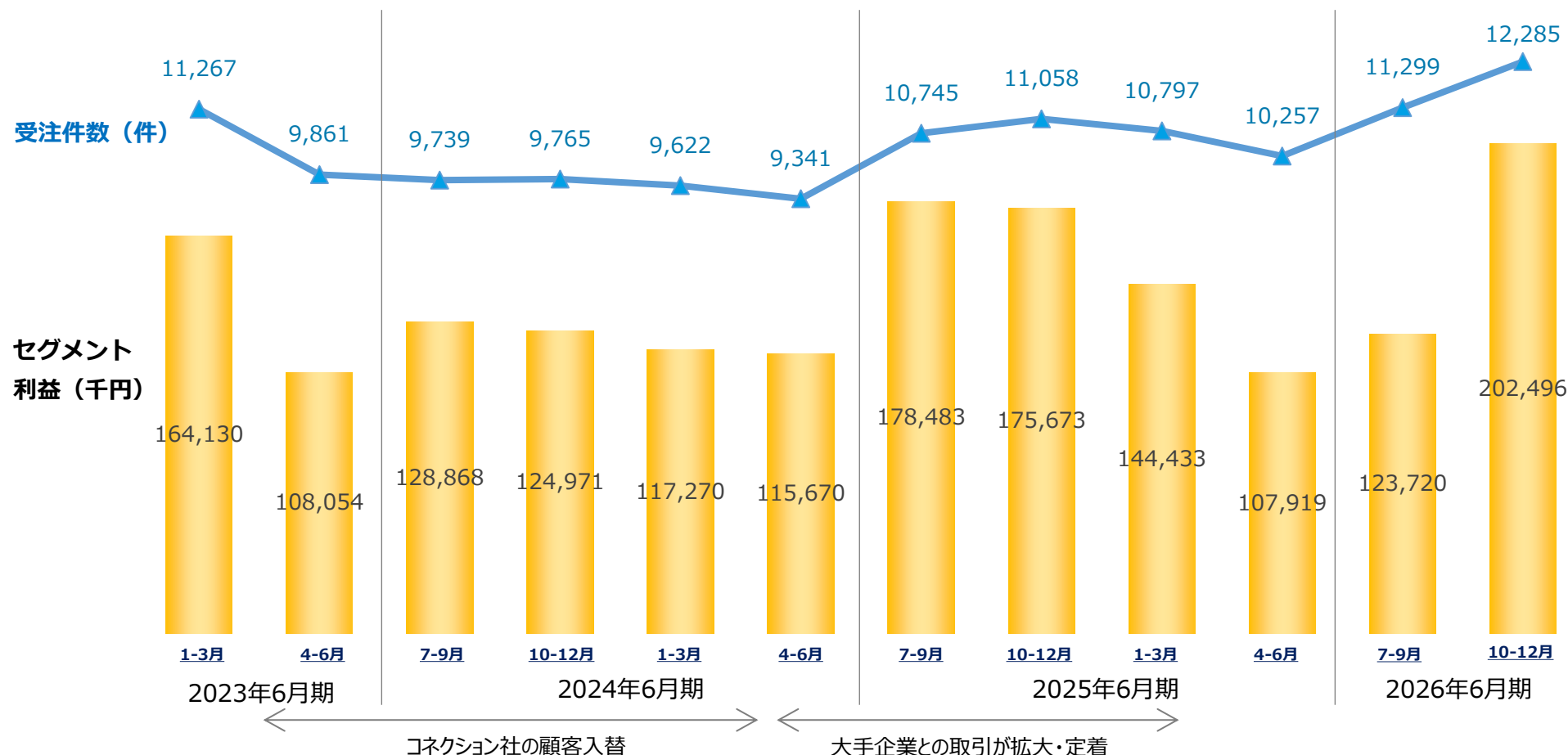
《素材ビジネスの事業別売上高推移》



※ソリューション開発機能は持株会社へ移動し、事業運営は高機能樹脂部門へ移管

- サーキュラー化に向けた取り組みが進展する中で大手企業を中心とした新規顧客との取引が増加し受注件数は過去最高。
- 当期2Q資源セグメント利益は一過性要因なく過去最高の利益となり、今後も更なる積み上げが期待できる状況で推移。

《資源ビジネス受注件数・セグメント利益推移》



➤ 中期経営計画の初年度としてサーキュラー化ニーズの高い大手企業との取引増により大幅な増収・増益を見込む。

	2025年6月期通期実績		2026年6月期通期予想			
(単位：百万円)	金額	構成比	金額	構成比	前期比	増減額
売上高	4,070	100.0%	4,800	100.0%	118%	730
売上総利益	1,324	32.5%	1,540	32.1%	116%	216
営業利益	182	4.5%	380	7.9%	209%	198
経常利益	151	3.7%	330	6.9%	218%	179
当期純利益	146	3.6%	300	6.3%	205%	154

前提条件

素材ビジネス

- ✓ カーペットリサイクル事業は、リサイクルタイルカーペットによるビル環境性能向上を武器に、大手デベロッパーを中心に調達量を拡大し旺盛な再生材需要に対応。
- ✓ 生産効率・品質の向上により高付加価値シフトを更に加速し、受注量の拡大、新規顧客の獲得を進める。
- ✓ 油化ケミカルリサイクルを始めとする廃プラ資源循環事業の立上げとビジネスモデル確立に注力。

資源ビジネス

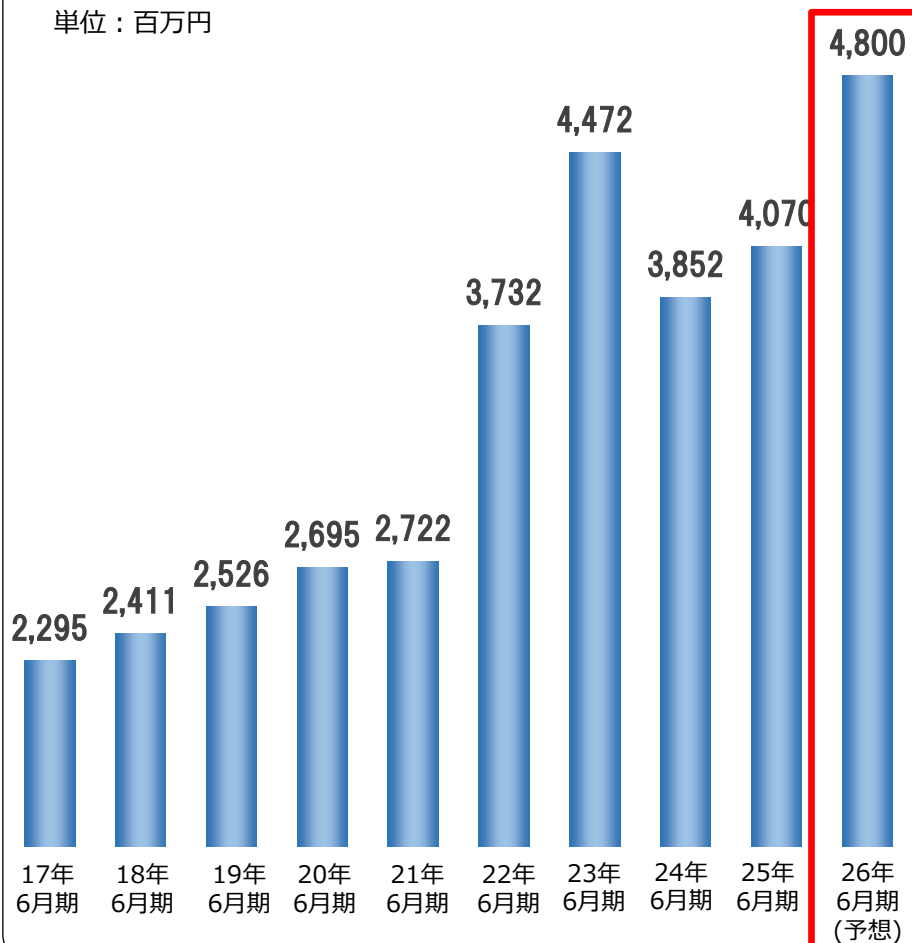
- ✓ カーペットリサイクルとの連動受注により大幅な受注件数の拡大を推進。
- ✓ 受注件数増に向けて車両・人員増への投資を先行実施。
- ✓ 既存廃棄物に加え、廃プラ資源の調達を拡大し、廃プラ資源循環事業への供給体制構築と同時に、売上基盤の拡大を進める。

2026年6月期業績予想 連結売上高及び営業利益の年次推移

- サーキュラーエコノミーへの移行に向けた具体的な取組が大手企業を中心に顕著になっており新規取引先が増加している。
- カーペットタイルリサイクルを牽引役とし資源ビジネスの連動受注により売上・利益ともに大きく伸ばす。

《連結売上高推移》

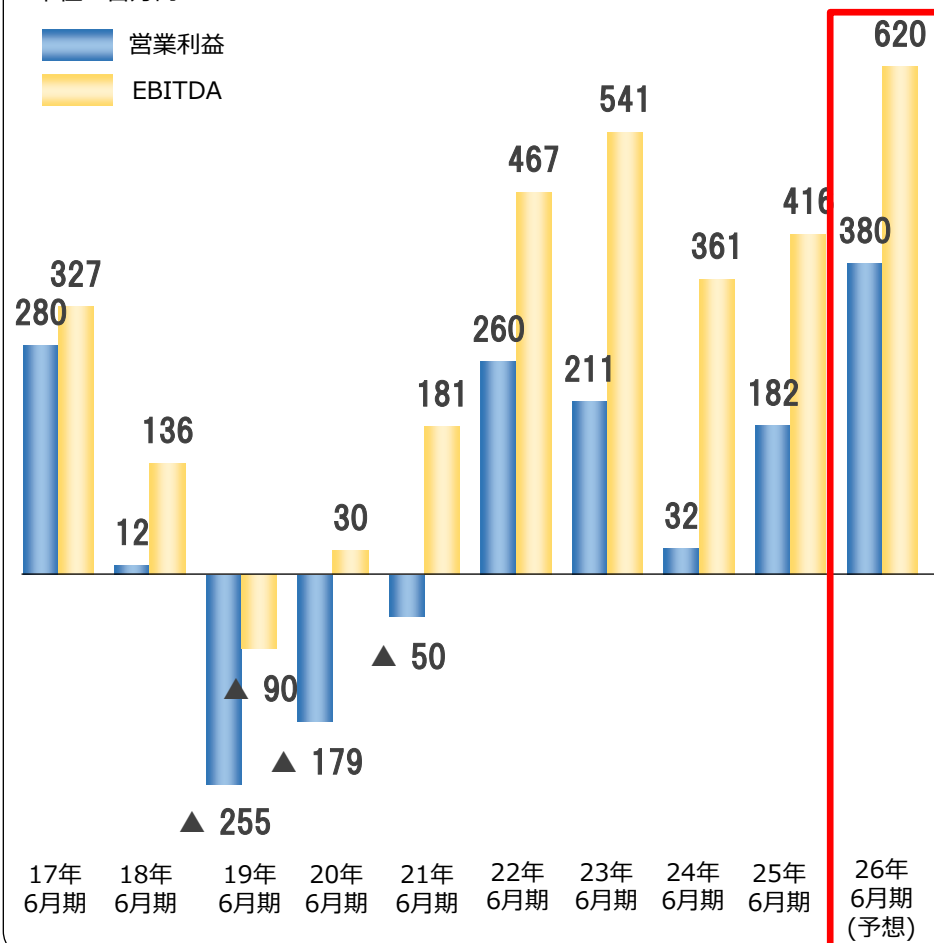
単位：百万円



《連結営業利益・EBITDA》

単位：百万円

営業利益
EBITDA



– Appendix –

誰にもない視点と技術で、
未来へ富をつないでいく。

会社概要

会 社 名：株式会社リファインバースグループ

資 本 金：162百万円（2025年6月末）

設 立：2021年7月（創業1983年）

従 業 員：232名(グループ全体)

関連会社：リファインバース株式会社

株式会社ジーエムエス

リファインマテリアル株式会社

主要拠点

- 本社 東京都千代田区丸の内
- 千葉工場 千葉県八千代市
- リファインバースイノベーションセンター(RIVIC)
千葉県富津市
- 一宮工場 愛知県一宮市
- 蒲郡工場 愛知県蒲郡市（2026年6月稼働予定）
- 船橋ラボ 千葉県船橋市
- TACS3 東京都大田区
- 堀切工場 東京都葛飾区
- 鹿浜工場 東京都足立区



2003年に前身であるリファインバース株式会社を設立し、カーペットタイルやナイロン樹脂のリサイクルを中心に事業を拡大。

- table
- | | |
|-------|---|
| 2003年 | ・ リファインバース株式会社を設立 |
| 2006年 | ・ 千葉県八千代市でカーペットタイルリサイクル工場操業開始 (千葉工場) |
| 2011年 | ・ 住友商事・住江織物と共同開発したリサイクルカーペットの販売開始 |
| 2016年 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 日東化工(株)よりリサイクルナイロン樹脂事業を承継 ・ 東証マザーズ上場 ・ 再生樹脂製造子会社リファインマテリアル(株)設立 |
| 2017年 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 開発拠点であるリファインバースイノベーションセンター(RIVIC)竣工 ・ 建設系廃棄物を原料とした製鋼副資材の製造販売を開始 |
| 2019年 | <ul style="list-style-type: none"> ・ リサイクルナイロン製造拠点の一宮工場竣工 ・ 再生ナイロンコンパウンド「REAMIDE®」の販売開始 ・ ソリューション事業を開始 ・ 再生スーパーエンジニアリングプラスチック事業を開始 |
| 2021年 | ・ 株式会社リファインバースグループ設立。持株会社体制へ移行 |
| 2022年 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 資源ビジネス事業領域拡張のため株式会社コネクションを買収 ・ 株式会社鈴木商会にライセンス供与し、北海道で「REAMIDE®」の生産を開始 ・ 廃車から回収したエアバッグからリサイクルナイロン樹脂製造を開始 |
| 2023年 | <ul style="list-style-type: none"> ・ サーキュラーエコノミーの研究開発拠点「COC Co Lab.」を千葉県船橋市にオープン ・ 再生バイオ素材「ReFEZER®」を発表 |
| 2024年 | ・ マスバランス方式による資源循環に対応するため「ISCC PLUS」認証を取得 |
| 2026年 | ・ 株式会社ジーエムエスが株式会社コネクションを吸収合併 |

環境とコンプライアンスを重視した産業廃棄物収集運搬中間処理事業

小規模解体工事→収集運搬→中間処理の一貫体制による利便性・対応力の強さで首都圏中心に事業展開



IT化の推進

回収情報詳細



回収の1件ごとに、回収実績及び回収画像の確認が可能。納品書もオンラインで発行可能。

ダッシュボード機能

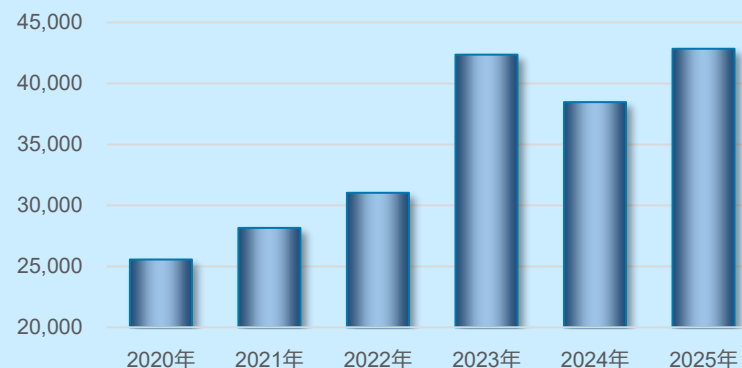


全社で排出する廃棄物の数量、金額、単位で可視化。廃棄物の回収品目を100分率率なども表示。※一部公開済み



詳細な処分品目毎にリサイクル率を可視化し顧客に提供

受注件数



2023年コネクション社を買収し、事業規模を拡大し成長を継続

これまでに有効利用されていない廃棄物を独自開発技術で再生処理を行い様々な素材を製造。
アパレルや自動車部品、建築資材など幅広い分野で“ポストコンシューマーリサイクル材料”として活用されている

《リファインバースのリサイクル事業実施例》



本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。

